



花 : アジサイ
撮影場所 : 産学・地域連携推進機構
駐車場隣接通路脇

7月の特許相談会

※今月は鳥取地区で2回開催されます。相談をご希望の方は予約をお願いします。

【鳥取地区】

相談員 : 滝本智之弁理士
(電気・機械関係他)

日時 : 7月15日(金) 13:30より
場所 : 鳥取大学産学・地域連携機構 2階会議室

【鳥取地区】

相談員 : 富田憲史弁理士
(医獣・バイオ関係他)

日時 : 7月14日(木) 13:30より
場所 : 鳥取大学産学・地域連携機構 2階研修室

今後の予定

【8月】 滝本弁理士	8/9 (火)	富田弁理士	8/10 (水)
【9月】 滝本弁理士	9/14 (水)	富田弁理士	9/13 (火)
【10月】 滝本弁理士	10/13 (木)	富田弁理士	10/14 (金)



【目次】

7月の特許相談会	1
企業紹介 シリーズ第16回 一(株)寺方工作所	2
お知らせ [山陰(鳥取・島根)発新技術説明会、CIC東京新技術説明会]	3
国際バイオアカデミックフォーラム報告	4
知的財産に関する教育・研究の活動事例	5~6
本学の知財部門発足時と平成22年度との知財業務実績の比較(その2)	7~8

企業紹介 シリーズ第16回 一(株)寺方工作所一



株式会社寺方工作所

代表取締役社長 寺方泰夫

【 会社紹介 】

当社は大阪市で金型加工業として創業し、1966年（昭和41年）に鳥取県倉吉市に進出しました。1982年（昭和57年）には、現在の東伯郡北栄町田井175に移転し、自社でプレス金型を設計、製作し、プレス加工品を製造しております。

【 社是 】

顧客に信頼される一歩進んだ技術と精度をめざす

【 方針 】

今後増加が見込め、時代が要求する製品の生産技術を身につけ、他社ではできない製品を自社で生産できるように研究し、技術面で他社との差別化を図る。

人材の育成としては、「答えのない領域」での業務遂行能力を高める指導をしております。



写真1 : 「板鍛造」プレス製品



写真2 : 順送プレス金型

過去には、NC工作機械とCAD装置を駆使して高精度金型を設計、製作するシステムを構築し、高精度のプレス製品を量産して日本の電子部品や電化製品に貢献してきました。近年は、切削部品をプレス加工に工法転換する「VE提案型の開発品」を多く扱ってきました。

写真1と写真2はその事例紹介です。

この種のプレス加工は「板鍛造」と呼ばれ、順送プレス金型の中で冷間鍛造加工をしています。ご存知の通り、精度の高いプレス加工品であっても、大量生産部品は海外に流出しましたので、結果として難易度の高い製品しか日本には残っておりません。しかし、当社には他社と差別化したプレス加工技術が多くあり、「板鍛造」をさらに発展させて「精密板鍛造」と名付けた高精度部品も開発に成功し、量産しております。

今後も、「産官学」の交流や支援をいただきながら、人材の育成や地域の発展に貢献し、日本の製造業が海外に進出（流出）する中で尚、鳥取県から業界最高水準のプレス加工品を提供していきます。

【 会社概要 】

所在地 〒689-2103
鳥取県東伯郡北栄町田井175
電話 0858-36-4311 (代)
FAX 0858-36-4268 (代)
URL <http://www.terakata.jp>
E-mail y-terakata@terakata.co.jp





山陰(鳥取・島根)発 新技術説明会

大学等が主体で創出した特許等研究成果の社会還元を図るため、山陰の研究機関が科学技術振興機構と合同で、新技術説明会を開催します。発明者である研究者自らが発表し、企業関係者の皆様に、技術内容を詳細に説明します。また、それぞれの発表後には、発表者と参加者との個別の技術相談を実施します。

【日時】平成23年7月8日(金) 11:00~17:20

【場所】科学技術振興機構 サイエンスプラザ地下1階 JST ホール(東京都千代田区)

【鳥取大学発表シーズ】(全シーズ10件、うち鳥取大学4件)

■【題目】生細胞におけるDNA2本鎖切断損傷を検出するバイオセンサーと解析システム

【発表者】大学院医学系研究科 機能再生医科学専攻 准教授 栗政明弘

■【題目】空気圧を利用した遮音量可変型軽量遮音構造

【発表者】大学院工学研究科 機械宇宙工学専攻 教授 西村正治

■【題目】節水型土壌修復技術のための表層吸引溶脱装置の開発

【発表者】農学部 生物資源環境学科 准教授 猪迫耕二

■【題目】リサイクル資材を用いた省力型持続的節水灌漑法

【発表者】乾燥地研究センター 教授 井上光弘

□【プログラム・申し込み】<http://jstshingi.jp/san-in/2011/>

□【主催】国立大学法人鳥取大学、国立大学法人島根大学、
地方独立行政法人鳥取県産業技術センター、島根県産業技術センター
独立行政法人科学技術振興機構(JST)、鳥取県農林水産部農林総合研究所

□【共催】中国地域産学官連携コンソーシアム

CIC 東京新技術説明会

キャンパス・イノベーションセンター東京に集結する大学の内、今回12大学が科学技術振興機構との共催で実施します。具体的にはA会場(電気・電子/化学/材料)とB会場(情報/機械/医療・バイオ)に分かれて、未公開出願を含む17件のライセンス可能な特許内容が発表されます。本学からは以下の2件を発表するとともに、個別の技術相談を実施します。

【日時】平成23年7月28日(木) 11:00~17:20

【場所】キャンパス・イノベーションセンター東京(東京都港区)

【鳥取大学発表シーズ】(全シーズ17件、うち鳥取大学2件)

■【題目】フォトリソグラフィーを必要としない超微細回路
及びその形成技術

【発表者】大学院工学研究科 准教授 木下健太郎(A会場/電気・電子/13:30~13:50)

■【題目】マイクロRNAによる次世代幹細胞作成法

【発表者】鳥取大学 医学部 准教授 三浦典正(B会場/医療・バイオ/15:20~15:40)



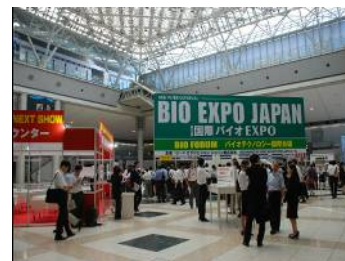
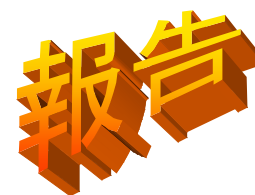
第10回国際バイオ EXPO バイオアカデミックフォーラム

～本学の教員が研究成果を発表しました～

ライフサイエンス研究機器メーカーや試薬メーカー、バイオベンチャー、研究機関、国・自治体など 650社が、先端バイオ技術を一堂に出展。製品・技術の導入を目的に来場する研究者と出展社との間で、技術相談や商談が活発に行われる【アジア最大の研究者のためのバイオ展】に本学教員3名が発表しました。。

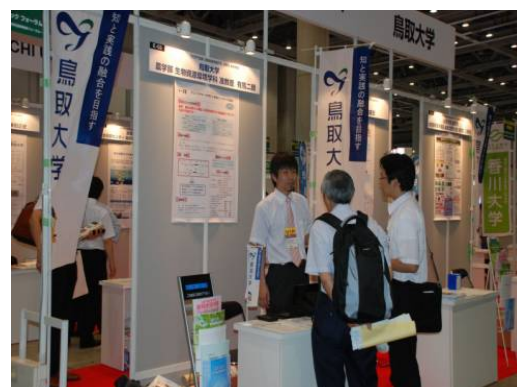
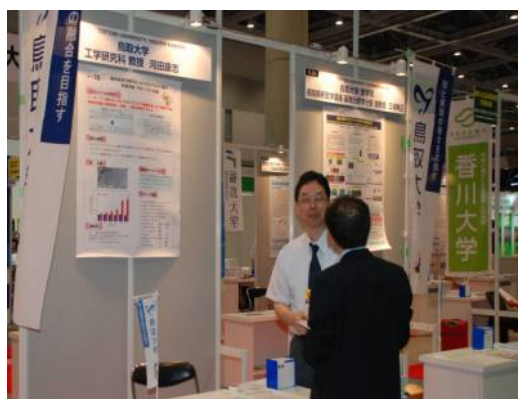
■開催日時 2011年6月29日(水)～7月1日(金)

■会場 東京ビッグサイト西展示場
リードエグジビションジャパン(株)主催。



【研究成果発表フォーラム】 ポスター展示は会期中3日間 開催しました

- ◆「**脳神経変性病の診断治療薬の開発に向けた蛋白質科学的研究**」 聴講者 52名
(6月29日 14:10～14:40) 工学研究科 河田康志教授
- ◆「**癌を抑制するマイクロRNAの医療応用**」 聴講者 78名
(6月30日 14:50～15:20) 医学部 三浦典正准教授
- ◆「**アミノペプチダーゼを用いた多様なジペプチド類の生産法**」 聴講者 名
(7月1日 14:50～15:20) 農学部 有馬二郎准教授



知的財産に関する教育・研究の活動事例

知的財産管理運用部門では、平成 23 年度においても「知的財産に関する教育・研究」を推進しています。それらの一端として、「教育」については主題科目Ⅳ「技術と知的財産」で実施した特別講義の様子、「研究」については知的財産権の有効利用を主目的に産学官連携の実態等を公表・討論する学会活動の様子について紹介します。

知的財産教育の事例

本年度、本学学生を対象に実施した知的財産に関する講義、主題科目Ⅳ「技術と知的財産」の中で、三菱電機(株)伊丹製作所 車両システム統括技術部長の加我 敦氏による特別講義「表題：鉄道交通システムにおける特許環境」が 6 月 7 日に、(財)鳥取県産業振興機構知的所有権センター知財コーディネーターの村上耕一氏による「特許情報をさがしてみよう」が 6 月 28 日に開催されました。

講師の加我氏は長年培った鉄道交通システム・制御技術を基調に、特に電力系統や電気機器分野での技術力と知的財産権の取得に向けて競合他社との熾烈な戦いを実践した経験を交え、発明を生む環境の大切さを講義されました。

講義内容の概略

- (1) 鉄道交通における特許（特許の背景）
- (2) 近代鉄道の代表車両の特徴Ⅱ（首都圏車両）
- (3) 鉄道交通に関連するシステムと技術管理
- (4) 鉄道交通における英知

①電力系統（給電システム）：電気車に電力を供給するシステムとして、走行中に車両の集電装置との接触が損なわれないように振動対策、接触や火花による磨耗の対策、必要な電力を供給できる電線の設置が必要。

②電気機器（特に半導体の進化）：小電力化や制御系の改善を目的に、高出力・高安定半導体と周辺機器・部品の改造が必要。

- (5) 世界の知的財産分野の駆け引き
- (6) 世界における日本の技術環境



また、講師の村上氏は知的財産権の取得や知的財産権に係わる訴訟等、長年蓄積した知的財産に係わる専門家の立場から、特許情報の多種多様な研究・技術情報を把握するための有効な手段であることを踏まえ、インターネットで誰でもアクセスできる特許電子図書館（IPDL）を用いた演習を取り入れた講義を行いました。




講義内容の概略

- (1) 特許情報の活用とは
- (2) 言葉で探すテキスト検索
- (3) 番号がわかって探すDB検索
- (4) 特許分類（3種類）とFタームを見る
- (5) 意匠・商標の検索（紹介）

知的財産研究の事例（連携学会第9回大会での発表）

平成23年6月16日（木）～17日（金）佐賀県佐賀市のアバンセ[佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター]で、第9回産学連携学会大会が開催されました。全国から104件のエントリー発表があり、本学からは3件の事例発表を行いました。

<p>(1) 6月16日（木）第1日目 B会場（13：00～14：45）産学官連携プロジェクト 0616B1300-2 電機メーカーからの設備導入支援による産学連携強化 ○佐々木 茂雄（鳥取大学 産学・地域連携推進機構） 小幡 文雄、上原 一剛（鳥取大学 大学院工学研究科） 吉岡 昭義（三菱電機株式会社 鳥取営業所） 橋本 良則（多田電機株式会社 営業本部）</p>	
<p>(2) 6月17日（金）第2日目 D会場（9：30～16：15）人材育成2 0617D1300-5 鳥取大学における知的財産インターンシップ事業 ○山岸 大輔、加藤 優、佐々木 茂雄（鳥取大学 産学・地域連携推進機構）</p>	
<p>(3) 6月17日（金）第2日目 A会場（9：30～16：55） オーガナイズドセッション（産学連携を新たなステージへ） 0617A1415-2 産学官連携における「人的ネットワーク」分析の試み ○前波 晴彦（鳥取大学 産学・地域連携推進機構）</p>	

特に、上表の(1)(2)では 知的財産関連の活動について報告を行いました。その概略を以下に示します。

(1) 電機メーカーからの設備導入支援による産学連携強化

鳥取大学におけるものづくり企業につながる価値向上への具体的取組み事例として、

- ①鳥取大学と三菱電機グループの多田電機とは、電子ビーム加工機の電子銃の高性能化をきっかけに始動した共同研究を機に、金属表面加工に係わる研究・開発を促進するため、は三菱電機製（製造元：多田電機）電子ビームマルチ表面加工機を鳥取大学に無償貸与で導入することを決定。
- ②電子ビームマルチ表面加工機の導入により、電子ビームによる表面加工の用途開発を目的として、鳥取県内における新産業の創出に鳥取大学が積極的に貢献することを検討。



(2) 鳥取大学における知的財産インターンシップ事業

- ①鳥取大学においては、知的財産に係る人材育成が重要なミッションの一つとして挙げられており、全学共通科目等における知的財産に関連する講義や公開講座等を通じて、継続的に知的財産に精通した職業人を養成。
- ②その一環として、知的財産インターンシップ事業を平成17年度から毎年8月～9月に実施しており、これまで約15名の学生が参加。本事業の内容とニーズに合わせて実施形態を変化させてきた取り組み内容を紹介。



本学の知財部門発足時と平成22年度との知財業務実績の比較（その2）

前号の『知財部門ニュース（平成23年6月号）』では、本学の知的財産の創出・権利化に係わる知的財産活動実績を中心にこの発足時と現在との知的財産業務実績について様々な知的財産指標に基づいて比較検討してみました。今回は、蓄積された知的財産権を活用するための活動とその実績について言及します。

本学の知的財産の活用に係わる知的財産活動実績の比較

(1) 知的財産の活用に係わるPR活動状況

① 本学教員の出願済み案件の中から共同研究やライセンス契約等になる可能性の高い案件を選択し「鳥取大学知的財産シーズ集2010」を作成しました。

また、鳥取県知的所有権センターと連携して「使ってみたい鳥取県版特許集2011」を作成しました。

② 共同出願や共同研究の進展を図るため、

「海外技術シーズ発表会」広島大学と連携（6月、ニューヨーク）」

「バイオアカデミックフォーラム（6月、東京）」、

「山陰発新技術説明会（7月、東京）」「CIC東京新技術説明会（7月、東京）」、

「中国地域さんさんコンソ新技術説明会（8月、東京）」、

「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり（9月、鳥取）」、

「イノベーション・ジャパン2010（9月、東京）」、

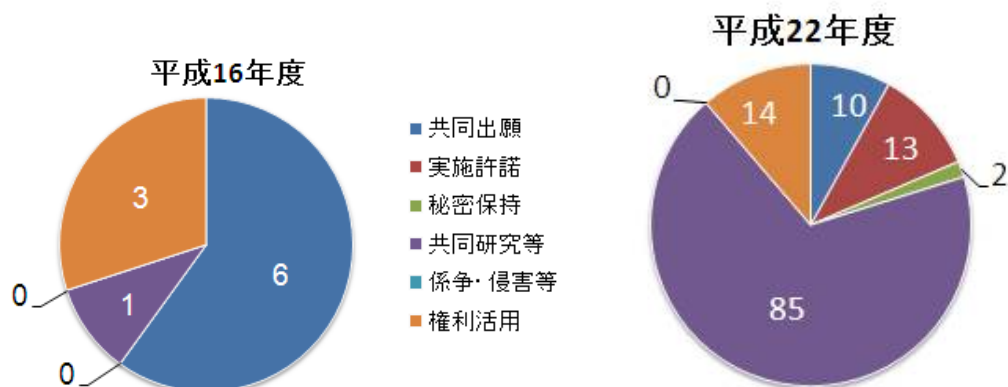
「アグリビジネス創出フェア2010（11月、千葉）」、

「山陰発技術シーズ発表会 in 島根2011（3月、島根）」等、

多くの場で技術発表や出展を実施しました。その結果、共同研究や外部資金獲得を実現しました。

(2) 知的財産の活用に係わる契約相談・契約交渉件数

権利の取得・活用に係わる活動については、i) 共同出願契約相談、ii) 実施許諾契約相談、iii) 秘密保持契約相談、iv) 共同研究契約相談、およびv) 権利活用相談等があります。それらの平成16年度および平成22年度における相談別件数を円グラフで以下に示します。

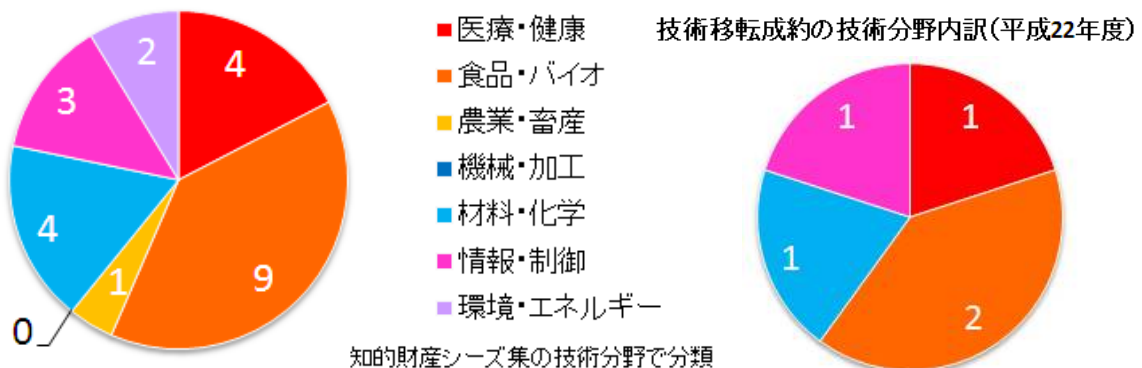


- ①平成22年度の契約相談・契約交渉の延べ件数は124件であり、平成16年度での延べ件数10件に対して実に10倍以上の件数となっています。この理由は、7年間で蓄積した特許をはじめとする知的財産の活用を図る施策推進によって、教職員から各種契約に絡む相談およびその相手先である企業等との交渉件数、そして共同研究契約締結に伴う相談件数が急増したためです。
- ②平成22年度では、係争・侵害等についての相談はなく、近年企業あるいは大学等とのトラブルは皆無の状況が続いていると言えます。
- ③技術移転等の権利活用に係わる相談件数は延べ14件、実施許諾に係わる相談件数は延べ13件実施しました。

(3) 知的財産の活用に係わる技術移転成約件数

①平成16年度では、技術移転成約件数は0件でしたが、平成22年度における交渉を通じて成約した技術移転成約件数は5件でした。その結果、技術移転成約に関する累計数は23件となりました。技術分野別では、食品・バイオ関係が全体の40%を占めています。

技術移転成約の技術分野内訳(全23件対象)



②上記①の交渉を通じて成約した技術移転累計案件 23 件の内、平成 22 年度の特許技術移転（ライセンス）料収入額は 3,292 千円です。

*** 刊行物 ***
 知財部門ニュース 7月号
 <52号> (通番81号、
 2011年7月1日発行)
 編集・著作：
 知的財産管理運用部門
 発行：鳥取大学
 産学・地域連携推進機構

*** 編集後記 ***

つい最近の取り留めのないことを2つ。「あっ!!」と思ったことが一つ目。アルミ缶ボトルのコーヒーができていたこと。いつも缶コーヒーに蓋がほしいと思っていた。そして「あ〜♡」と思ったことが二つ目。猫のドラマが増えたこと。言わずと知れた猫好きにて…。皆様、暑さを考えないようにしましょう。

*** 特許相談 ***

相談員：佐々木茂雄（部門長・教授） TEL：0857-31-6000(直通) (又は内線 2765)
 山岸 大輔（副部門長・助教） TEL：0857-31-6094(直通) (又は内線 4072)
 場 所：産学・地域連携推進機構 2F 知的財産管理運用部門
 知的財産管理運用部門 E-mail アドレス； chizai@adm.tottori-u.ac.jp
 FAX 専用； 0857-31-5474 (又は内線 2771)
 産学・地域連携推進機構 HP； <http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/>